

ものすごく大きな木をみると、テンション上がりませんか？

正法寺(岩殿)の観音堂の脇には高さ30メートルを超える大きな銀杏の木があります。木の年齢(樹齢)は700年を超えるとされ、江戸時代の絵図にも描かれています。昭和49(1974)年に市の天然記念物に指定されました。

銀杏は古くから地球上に生息している木で「生きている化石」ともよばれています。正法寺の大銀杏も力強く生きていて、秋の紅葉の季節はもちろん、四季折々で様々な姿を見せてくれます。



176cmの成人男性

左から春夏秋冬の大銀杏

問 埋蔵文化財センター
TEL 27-10333 FAX 27-10334



市HP

3月号のおしえて「文化財」の内容に一部誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

写真の説明

正： 左から、無量寿寺の誕生仏 定宗寺の誕生仏 妙昌寺の誕生仏
誤： 左から、無量寿寺の誕生仏 妙昌寺の誕生仏 定宗寺の誕生仏

えんじょい スポーツ

相撲



馬場俊之さん

昨年10月、両国国技館で行われました第36回わんぱく相撲全国大会に出場した南中学校1年生の馬場俊之さんを紹介します。わんぱく相撲全国大会とは地区予選から勝ち上がった、小学生を対象とした最大規模の全国大会です。

馬場さんは、小さい時から体も大きく、相撲好きのおじいちゃんの影響もあって、幼稚園から相撲を始めたそうです。

昨年、県の代表として関東大会にも出場したため、現在は、上尾市の県立武道館での合同月例稽古に参加し、県内から集まってくる小・中学生の猛者達と一緒に稽古に励んでいます。稽古内容は、体力づくり等の基礎練習から始まり、取り組み稽古、基本動

作の四股、すり足、てっぼうなどの稽古が中心となります。体と体がぶつかり合う稽古は迫力があって、また持久戦になると、はあはあと肩で息をするほど激しく、ぶつかった体は、赤くなってしまふそうです。

馬場さんに好きな力士を聞くと、貴景勝関や埼玉県出身の阿炎関と答えてくれました。

好きな理由は、つっぱりなどの技が参考になるとのこと。自分も前に出る相撲を取りたい。今後の目標は、県の大会で上位に入ることと語ってくれました。

4月から中学生になった馬場さんですが、これからも前へ前へ出る相撲で目標に向かって頑張ってください。



人口と世帯(3月1日現在)		交通事故発生件数(2月中)		市内の空間放射線量測定結果	
人口: 90,373人 (+4)	男: 45,458人 (+3)	発生件数: 281件*	人身事故: 13件(死者: 0人、けが人: 19人)	市内34か所で空間放射線量を定期的に測定しています。	3月の測定においても、基準値を下回っています。
女: 44,915人 (+1)	出生(2月中): 33人 (-16)	物損事故: 268件	※東松山警察署管内(東松山市・滑川町・川島町・吉見町)の件数	測定結果の詳細は、市HPに掲載しています。	測定結果の詳細は、市HPに掲載しています。
死亡(2月中): 85人 (-14)	転入等(2月中): 329人 (+36)	火災と救急件数(2月中)	火災件数: 5件	救急件数: 361件(交通: 17、急病: 233、その他: 111)	搬送人員: 282人
転出等(2月中): 273人 (+14)	世帯数: 41,623世帯 (+37)				
*()は前月比					

梶田先生と振り返る思い出の一コマ Vol.13

唐子飛行場跡の新郷開拓地に、1969(昭和44)年度から埼玉県企業局による東松山工業団地の造成工事が始まりました。5億9,000万円を投じて1976(昭和51)年に完成し、分譲の募集が開始されると88区に62企業の申し込みがありました。業種別では化学産業が一番多く、ついで金属、電気、鉄鋼、食料品の順となりました。

工業団地の総面積は、滑川町にまたがる73万6,000㎡!

最高分譲価格は2億114万円(8,900㎡)だったんだって。

東松山工業団地分譲開始 1976(昭和51)年



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画「漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ」のキャラクターたちです。



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

埼玉県子ども動物自然公園 動物ZOO鑑



動物ZOO鑑

～園長おすすめ キリン～

新しくなったキリン舎

動物園が開園して2年後の1982(昭和57)年3月、4頭のキリンが仲間入りしました。当時、高校を卒業し、春休みに飼育のアルバイトをしていた私は、輸送車の荷台の大きな箱から顔を出して不安そうに周りを見渡しているキリンの姿を少し離れて見ていました。あれから約40年、キリン舎は老朽化が進み暖房が効きづらくなってきました。また、放飼場は冬に北風を避ける場所がなく、キリンたちもさすがに寒そう。そこで新しいキリン舎の建設が計画され、2022(令和4)年3月に念願のオープンとなったのです。新しいキリン舎は、あえて放飼場の北側に新設したため、北風を避けることができます。室内も冷暖房はバッチリ。全室にモニターが付き、観察も録画もできます。さらに、大きなキリンを保定(※)できる保定枠兼体重計も完備。アメリカから導入したもので、注射や治療がしやすくなり、キリンの健康をさらに管理できます。

そして一番のポイントは、大きなガラスの室内展示室。これまでは、雨天になるとキリンが室内に入ってしまうことが多く、見えにくかったり展示が中止になったりすることがありました。しかしこれからは、嵐の日でも室内のキリンを観察することができます。それもガラス1枚隔てた目の前で。なによりキリンの大きさを実感してもらいたくて、大きなガラスを用意しました。実はこの施設のモデルは、ドイツ・ミュンヘンの動物園のキリン舎です。訪れた時の感動を皆さんにも味わってほしかったのです。

新キリン舎は「キリンテラス」と名付けました。建物の立派さとその名前から「あら、レストランができたんだね～」と通り過ぎる人がいますが、食べ物は売っていませんのでご注意ください。

※動物を治療するとき等に動かないように押さえること。



新しいキリン舎で緊張している親子



北風も遮られるようになりました



大きなガラスの向こうにはキリン